

ラトビア月報

【2013年2月】



2013年（平成25年）3月発行
在ラトビア日本国大使館
<http://www.lv.emb-japan.go.jp/>

主な内容

【内政】

- ・ユーロ導入関連法の公布
- ・地方議員定数を一部削減する法案の可決

【経済】

- ・2012年第4四半期のGDP成長率は対前年同期比5.1%
- ・2012年の貿易総額は対前年比13.7%増

【外交】

- ・EU次期多年度予算におけるラトビアの状況
- ・ドンブロウスキス首相のモルドバ訪問
- ・「Northern Future Forum」の開催、キャメロン英首相の来訪

【日本との関係】

- ・ウシャコウス・リガ市長の訪日
- ・日本対ラトビアのサッカー国際親善試合

※「ラトビア月報」は、ラトビアにおける政治・経済状況等について、ラトビア政府発表や各種報道等の公開資料を取りまとめたものです。月別の時事情報として御参照いただければ幸いです。但し、「在ラトビア日本大使館作成の資料によれば」といった引用は避けていただくようお願いいたします。

【内政】

◆ユーロ導入関連法の公布

1月31日のユーロ導入関連法（新通貨ユーロおよび旧通貨ラツツの同時流通期間、移行時の両替、価格表示等について規定）の成立を受け、野党政党連合「緑と農民連合」は、同法案の公布を阻止するため国会議員の署名集めを開始した。国会で最大議席を持つ野党「調和センター」が応じなかったことで、ユーロ導入関連法は遅滞することなく公布された。政府は2014年1月1日のユーロ導入に向けた手続を進めており、本国内法整備はその一環。

◆ユーロ導入のための「収斂報告書」の要求は3月前半に

18日、ビルクス財務相は、ユーロ導入に向けた手続きとしての欧州委員会及び欧州中央銀行への「収斂報告書」の要求について欧州委員会の専門家と協議しているとして、同報告書要求のタイミングは3月上旬になる可能性が大きいとの見通しを示した。

◆閣僚の業績評価を国会に提出

4日、連立与党は、全閣僚（13人）の業績・失敗等を記載した業績評価報告書を国会に提出することで合意した。与党「National Alliance」が、現閣僚の中には業績が不十分な者がいるとして、同報告書の策定を要求していたものであり、同党は、目標を達成できていない大臣の交代を求めている。連立政権は3党で閣僚ポストを分け合っているが、閣僚ポストの党別割り振り（「National Alliance」の14議席に対して2閣僚ポストであるのに対し、「改革党」は16議席に対し5閣僚ポストを占めている）に対する不満が背景として指摘されている。

◆地方議員定数の一部削減

14日、国会で地方選挙法改正法案が可決され、地方議員定数の一部が削減されることとなった。削減されるのは、人口が5千人以下の小規模自治体の地方議員定数で、これまでの13から9に削減される。ラトビアでは、人口や自治体の法的地位により119の選挙区それぞれについて9～19の地方議員定数が定められている（首都リガ市のみ定数60）。

◆ダウガウピルス副市長の逮捕

4日、汚職防止委摘発委員会は、ラトビア第2の都市であるダウガウピルス市（東部ラトガレ地方、人口約10万人）のシルヤコウス副市長を収賄の容疑で逮捕したと発表した。

【経済】

◆ 12年第4四半期のGDP成長率

11日、中央統計局は、2012年第4四半期のGDP成長率（速報値）を発表した。同成長率は、対前年同期比5.1%増、対前期比1.3%増で、貿易部門及び製造部門で顕著な伸びが見られた。

また、15日、ユーロスタットもラトビアの2012年第4四半期成長率を公表し、対前期比で1.3%、対前年同期比ではEU域内最大の5.7%を記録した。バルト諸国では、エストニアが対前年同期比3.4%、リトアニアも同3.1%の成長を記録しており、同地域経済の好調ぶりが示された。

◆ 2013年の経済成長予測

18日、経済省は、ラトビアのマクロ経済に関する報告書の中で、2013年の経済成長は、5%程度が見込まれる2012年に比べると若干緩やかなものになるものの、引き続き輸出産業（特に製造業）を中心にすべての国内主要産業が成長を拡大できるとの見通しを示した。国内需要も拡大しており、貿易額も増加する見通しであるが、反面、成長が鈍化する分野としては建設業と公共部門を挙げた。

◆ 2012年の貿易統計

15日、中央統計局は2012年のラトビア貿易統計（暫定値）を公表し、同年の貿易額は輸出69億ラツツ、輸入87億ラツツ、合計156億ラツツ（約221億ユーロ）規模であったことが明らかになった。2011年からは13.7%（輸出15%増、輸入12.7%増）大幅に増加した。特に輸出は4半期連続で前年同期を上回るなど、製造業を中心に力強い動きが見られた。

◆ 1月の消費者物価指数

8日、中央統計局は、2013年1月の消費者物価指数を発表した。同指数は、対前年同月比0.6%増、対前月比0.2%減となった。1月の物価は、前月と比較して衣類の物価が低下する一方で、食料価格は上昇した。

◆ 1月の失業率

13日、雇用庁は、登録失業者数に基づく2013年1月末時点の失業率を発表した。失業率は10.9%（対前月比0.4%増）で、失業者数は10万7488人。特に東部のラトガレ地方では失業率が21.1%と高くなっている（首都リガ市では6.4%）。

◆非居住者預金比率の増加

5日、金融・資本市場委員会は、2012年末時点におけるラトビアの金融機関への預金総額を発表した。預金総額は127億ラツツ（約180億ユーロ）であり、対前年比12.7%増となった。そのうち居住者預金額は、対前年比5億3千万ラツツ増、非居住者預金額は8億7600万ラツツ増となり、預金総額に占める非居住者預金割合は48.9%（対前年比1.7%増）に達している。国際通貨基金（IMF）や欧州委員会は、高い非居住者預金の割合がラトビア経済の不安定要素であると注意喚起している。

◆ラトビアの信用格付け引き上げ

8日、日系格付会社R&I社は、ラトビアの信用格付けを「BBB-」から「BBB」へ1段階引き上げた（格付け見通しは「安定」に据え置き）。同社がラトビアの格付を引き上げるのは2012年1月以来。

◆リトアニアUKIO銀行営業停止の影響は軽微

12日、リトアニアの中央銀行は、同国UKIO銀行に対し一時営業停止命令を出したが、ラトビアの金融規制当局である金融・資本市場委員会は、ラトビアの金融機関が、UKIO銀行との間で大きな資金関係を有していないことから、同銀行の営業停止がラトビア金融市場に深刻な影響を与えることはないとの見解を示した。

◆2012年の穀物収穫量

19日、中央統計局の発表により、2012年の国内穀物収穫量が、前年に比べ50.5%も大幅に増加し、ラトビアの歴史上初めて210万トンに達したことが明らかになった。世界的な食料価格高騰の影響もあり、国内の豊作にもかかわらず穀物平均取引価格は上昇し、2011年に1トン当たり134ラツツであったものが、2012年は145ラツツで取引された。

◆国内製薬業界の生産高は15%増

22日、薬品庁発表によると、国内製薬業界の2012年の生産高は、対前年比で15%増の1億7百万ラツツ（約1億5千万ユーロ）となり、それに伴い輸出も16%増加した。ラトビアでは製造された医薬品のうち約9割が輸出されており、2012年の国内消費量は4%増加したものの、生産高に占める国内消費割合は1割程度にとどまっている。

◆年金支給額の実態

18日、社会保険庁データにより、年金生活者の生活概要が明らかになった。現在、ラトビアには48万8千人の年金受給者が生活しており、そのうち53%（25万8千

人)は月額190~200ラツツ(270~284ユーロ)の年金支給額,約11万5千人は月額150ラツツ以下の年金受給額であり,その中には,月額100ラツツ未満の支給にとどまる年金生活者約3万人が含まれる。

◆43. 6%の子供が貧困の危機

27日のユーロスタットのレポートにより,ラトビアでは子供の43.6%が貧困と社会的疎外の危機にあることが明らかになった。ラトビアの状況はEU加盟国としては,ブルガリア(52%),ルーマニア(49.1%)に次いで深刻で,他のバルト諸国よりも状況が悪いことが示された(リトアニア:33.4%,エストニア:24.8%)。

【外交】

◆ベルズィンシュ大統領のアイルランド訪問

13日,ベルズィンシュ大統領はアイルランドを訪問し,ヒギンズ・アイルランド大統領,ケニー・アイルランド首相とそれぞれ会談した。ベルズィンシュ大統領は,リガが欧州文化首都となる2014年にアイルランド要人がリガを訪問するよう要請した。大統領は,アイルランド在住ラトビア人団体とも面談した。

◆EU次期多年度予算におけるラトビアの状況

7日~8日,ドンブロウスキス首相はブリュッセルで開催された欧州理事会に出席し,同理事会において,2014~2020年のEU多年度予算(結束資金,農業直接補助金,地域開発基金等)が合意された。EU多年度予算が初めて削減されたことで,多くの加盟国が割当て予算削減を迫られた中,ラトビアは対前期比で約15%増の約74億ユーロの予算枠を獲得した。人口一人当たりではEU加盟国中3番目に多い約3千ユーロとなった。しかし,当初のラトビアの要求(結束資金は対GDP比での現状維持,農業直接補助金は土地面積当たり加盟国平均の8割)を満たすものではなく,野党や農民等から批判されている。

◆ドンブロウスキス首相のモルドバ訪問

19日~21日,ドンブロウスキス首相はモルドバを訪問し,ティモフティ・モルドバ大統領,ルプ・モルドバ国会議長,フィラト・モルドバ首相とそれぞれ会談した。両国は二国間の良好な政治・経済関係を更に強化する事で一致した。ドンブロウスキス首相は,モルドバが,本年ビリニユス(リトアニア)で開催される東方パートナーシップ会合の場でEUとの連合協定を署名することを望んでいることに対し,支持を表明した。同訪問の機会に,ラトビア・モルドバ・ビジネス・フォーラムが開催された。

◆「Northern Future Forum」の開催，キャメロン英首相の来訪

28日，リガにおいて環境技術の競争力及び情報格差の是正をテーマとする「Northern Future Forum」が開催され，英国，バルト・北欧諸国から首相級を含む政府高官，専門家等約100人が参加した。同フォーラムに出席したキャメロン英首相は，ベルズィンシュ大統領及びドゥブロウスキス首相とそれぞれ会談し，二国間関係，経済関係，EUの将来等に関し意見交換した。キャメロン英首相はラトビアのOECD加盟に対して支持を表明した。

◆マリへの訓練要員派遣についての閣議決定

12日，政府はEUマリ訓練ミッションにラトビア国軍から訓練要員2名を派遣することについて閣議決定した（国会承認が必要）。パブリクス国防相は，3月上旬までに同要員を派遣したい意向を示した。

◆リンケービッチ外相のスイス訪問

25日～26日，リンケービッチ外相は，第22回国連人権理事会（UNHRC）に出席するためジュネーブを訪問した。同外相は，シリアにおける人権侵害や偽装結婚等による女性の性的暴行・人身売買の撲滅を積極的に行うよう求める演説を行い，また，ピレー国連人権高等弁務官との会談において，ラトビアの2014年国連人権理事会理事国選挙への立候補について協議し，トカエフ・ジュネーブ国連事務所長に対して，ラトビアが国連軍縮会議への加盟に関心を有していることを伝えた。

◆ポーランド外相の来訪

13日，シコルスキ・ポーランド外相はラトビアを訪問し，アーボルティニャ国会議長，ドゥブロウスキス首相，リンケービッチ外相とそれぞれ会談した。ラトビアのOECD加盟につき意見交換し，ポーランド側は支持を表明した。また，ラトビアとポーランドがそれぞれの在外公館で，互いにシェンゲン・ビザ発行を代行する協定に署名した。

◆ガーンジーとの税情報交換条約批准

28日，国会は「ラトビア・ガーンジー（イギリス王室属領）の税に関する情報交換条約」を批准した。

【日本との関係】

◆ウシャコウス・リガ市長の訪日

2月24日～3月3日の間，ウシャコウス・リガ市長は日本を訪問した。同市長は，リガが2014年欧州文化首都となる際の各種行事計画等について，EU・ジャパンプ

エスト日本委員会に説明したほか、「リガ・マラソン」等リガの広報を積極的に行い、また、東京・中目黒にあるラトビア雑貨専門店「Riga Collection」等を視察した。

◆中村祥子さんが国立オペラに出演

4日、ラトビア国立オペラ座において、英国王立ロイヤル・バレエ団、パリ・オペラ座バレエ団、ベルリン国立バレエ団等のプリンシパル（主役を踊るバレエ・ダンサー）による特別公演が行なわれた。ベルリン国立バレエ団に所属する中村祥子さんも参加し、ジュゼッペ・ピコーネ氏と共にアレクサンドル・グラズノフが作曲したバレエ「ライモンダ」のパ・ド・ドウを踊った。

◆サッカー国際親善試合

6日、神戸でサッカー日本代表対ラトビア代表による国際親善試合が行われ、日本はラトビアに3対0で勝利した。

【その他】

◆インフルエンザの流行

15日、疾病予防・対処センター所長は、今期、既にラトビア国内でインフルエンザによる21人の死者が出ていることを明らかにした。同所長は、インフルエンザの流行拡大のピークは既に過ぎており、今後患者数は減少するとの見通しを示した。

2013年2月の主な出来事

日付	【内政】	【外交】
1日		パブリクス国防相ドイツ訪問（～3日）
2日		
3日		
4日		
5日		
6日		
7日		ドンブロウスキス首相欧州理事会出席（～8日）
8日		
9日		
10日		
11日		トゥオミオヤ・フィンランド外相来訪
12日		ラトビア外務省が北朝鮮の核実験に対する非難声明発表
13日		ベルズィンシュ大統領アイルランド訪問 シコルスキ・ポーランド外相来訪
14日	国会で地方議員定数一部削減法案が可決	
15日		
16日		
17日		
18日		
19日		ドンブロウスキス首相モルドバ訪問（～21日）
20日		リンケービッチ外相ポーランド訪問
21日		
22日		
23日		
24日		ウシャコウス・リガ市長訪日（～3月3日）
25日		リンケービッチ外相スイス訪問（～26日）
26日		
27日		リンケービッチ外相イタリア訪問（～28日）
28日	国会は「ラトビア・ガーンジー（イギリス王室属領）の税に関する情報交換条約」を批准	リガで Northern Future Forum 開催（キャメロン英首相、アンシブ・エストニア首相、ブトケビチュウス・リトアニア首相、ラインフェルト・スウェーデン首相、トーニング＝シュミット・デンマーク首相、シグルザルドッティル・アイスランド首相来訪）

ラトビア主要経済指標

1ユーロ = 0.702804 ラツツ (ラトビア中銀レート)

GDP

	単位	2008	2009	2010	2011	2012 Q1	2012 Q2	2012 Q3	2012 Q4	出典
名目 GDP	百万ラツツ	16,085	13,070	12,784	14,275	3,696	3,781	3,901	-	中央統計局
国民一人当たりGDP	ラツツ	7,386	6,102	6,096	6,939	-	-	-	-	中央統計局
GDP実質成長率	%	▲ 3.3	▲ 17.7	▲ 0.9	5.5			2012予測	4.3	Eurostat

財政収支, 政府債務残高

	単位	2008	2009	2010	2011	2012 Q1	2012 Q2	2012 Q3	2012 Q4	出典
財政収支	百万ラツツ	▲ 682	▲ 1,277	▲ 1,040	▲ 489	-	-	-	-	中央統計局
財政収支対GDP比	%	▲ 4.2	▲ 9.8	▲ 8.1	▲ 3.4	-	-	-	-	中央統計局
政府債務残高	百万ラツツ	3,182	4,803	5,695	6,028	6,468	6,393	6,133	-	中央統計局
政府債務対GDP比	%	19.8	36.7	44.5	42.2	-	-	-	-	中央統計局

失業率, インフレ率, 月額平均賃金

	単位	2008	2009	2010	2011	2012 Q1	2012 Q2	2012 Q3	2012 Q4	出典
失業率	%	5.8	12.8	13.9	11.5	12.2	12.3	10.3	10.5	中央統計局
インフレ率	%	15.4	3.5	▲ 1.1	4.4			2012年	2.3	中央統計局
平均賃金(グロス)	ラツツ	479	461	445	464	475	485	470	494	中央統計局
平均賃金(ネット)	ラツツ	350	342	316	330	340	347	336	352	中央統計局

海外直接投資(FDI)

	単位	2008	2009	2010	2011	2012 Q1	2012 Q2	2012 Q3	2012 Q4	出典
海外直接投資残高	百万ラツツ	5,711	5,673	5,752	6,578	6,626	6,675	6,839	7,038	中央銀行

貿易統計

	単位	2008	2009	2010	2011	2012 Q1	2012 Q2	2012 Q3	2012 Q4	出典
輸出(FOB)	百万ラツツ	4,429	3,602	4,695	5,999	1,517	1,606	1,837	1,938	中央統計局
輸入(CIF)	百万ラツツ	7,528	4,710	5,912	7,719	2,009	2,150	2,263	2,276	中央統計局
貿易収支	百万ラツツ	▲ 3,099	▲ 1,108	▲ 1,217	▲ 1,720	▲ 492	▲ 544	▲ 426	▲ 338	中央統計局